LORDS BURG TIMES
ロードスバーグ時報
—178—
ロードスバーグ
日本人収容所
知事局
三月廿三日
火曜発行
第一七八号

特別號

第二班サンタフヒー行
第三大隊所属人員名録

阿部憲七	熊本	鹿島鳴次郎	鹿島
間馬輝弘	和歌山	青砥清吉	福島
青柳栄義	千葉	清間信	北海道
清沼留三郎	東京	蘆塚久三助	長野
阿波理三郎	千葉	安産名蒲	沖縄
出川連太郎	長野	常園林太郎	鹿島
江川利平	福島	遠藤吉義	静岡
遠藤権松	東京	榎本久太郎	和歌山
僕正豊	鹿島	藤井実	静岡
藤井整	山口	藤浪薫	静岡
藤田計次郎	静岡	藤原健吉	長野
福田長次郎	三重	福田栄次郎	鳥取
古川栄三	鹿島	古川金義	熊本
古川幸吉	岐阜	二井昇助	東京
浜口孫太郎	三重	浜口清吉	三重
浜本忠吉	山口	原田八郎	鹿島
橋本文義	石川	橋本恵三助	和歌山
橋本正治	奈良	畑中洗之	和歌山

別地誠識	東京	東田重義	東京
平島保	福岡	平島均	福岡
廣瀬新吉	滋賀	平田正雄	滋賀
星屋福次郎	神奈川	本間勝美	神奈川
飯田薫	愛媛	堀田貢	愛媛
池尻大信	福岡	飯野友尚	福岡
今村栄樹	鹿島	今橋重夫	鹿島
井上国義	愛媛	今村宗太郎	愛媛
犬塚甚三郎	和歌山	井上久次	和歌山
岩本利吉	千葉	伊藤鹿之助	千葉
岩佐新造	和歌山	岩本重吉	和歌山
岩田栄次郎	愛媛	山石下英之助	愛媛
伊井茂	和歌山	岩谷文治	和歌山
海野甚太郎	和歌山	加原寛	和歌山
金島巳之助	和歌山	梶亀五郎	和歌山
宮田道明	山口	加藤信四郎	山口
川崎甚助	和歌山	河野栄次郎	和歌山
沖縄	和歌山	川尻慶太郎	和歌山
川藤条造	静岡	川津磯右エ門	静岡
風間裕	広島	見寶布哇一	広島
栂直五郎	山口	菊地金右エ門	山口
木村唯一	福島	岸山重作	福島
橘内倉吉	広島	小畑村次	広島
小谷春吉	和歌山	小出宏光	和歌山
小宮三治	神奈川	幸木幾太郎	神奈川
木並鹿二	広島	近藤市也郎	広島
久保吾綱	和歌山	国庄納一	和歌山
倉本恒雄	和歌山	栗林齊	和歌山
黒谷喜一	愛媛	日下部方吉	愛媛
楠本孝太郎	和歌山	楠本正一	和歌山
楠山信一	(不詳)	翠月文方	(不詳)
加藤一	和歌山	前田樂一	和歌山
間所三助			

前田直一	和歌山	前原光朗	和歌山
松奈忠義	鹿島	松井吉之助	鹿島
松本城助	和歌山	松本清一郎	和歌山
松村芳太郎	埼玉	松岡マーテン	埼玉
南地留吉	和歌山	南出新五郎	和歌山
三浦万吉	山口	三島喜加一	山口
宮政嘉一	広島	宮本建苑	広島
宮坂銀四郎	和歌山	宮田主計	和歌山
宮沢保太郎	群馬	望月幸平	群馬
森井敬太郎	山口	森田栄一	山口
森山作次郎	岡山	守住宅雄	岡山
本山政男	和歌山	向井清一	和歌山
村井米松	佐賀	向井義雄	佐賀
村尾清太郎	福岡	村重常太郎	福岡
富山	神奈川	村田実	神奈川
沖縄	鹿島	永田安一	鹿島
鹿島	静岡	申島静雄	静岡
南部春義	岡山	新田喜太郎	岡山
岡山	広島	徳谷定助	広島
大坂	広島	鍬田在平	広島
鍬田在平	広島	小宮賢成	広島
小宮賢成	岩手	大石勉	岩手
大石勉	広島	大河内東三郎	広島
大河内東三郎	和歌山	小野国次	和歌山
小野国次	鹿島	小野小学校	鹿島
小野小学校	神奈川	大志我直吉	神奈川
大志我直吉	広島	大浦睦一郎	広島
大浦睦一郎	和歌山	小山田静一	和歌山
小山田静一	愛知	尾崎鉄三助	愛知
尾崎鉄三助	広島	三枝善次	広島
三枝善次			

松原喜次郎	和歌山	雑賀武一	和歌山
松井吉之助	兵庫	斎藤一八	佐賀
松本清一郎	長崎	坂辰次郎	三重
松岡マーテン	山口	坂田徳太郎	長野
南出新五郎	和歌山	櫻田三策	静岡
三島喜加一	広島	実松軌一	広島
宮本建苑	広島	佐藤兵吉	佐賀
宮田主計	和歌山	清家盛太郎	愛媛
望月幸平	群馬	鹿野幸治	福島
森田栄一	山口	島田千吉	静岡
守住宅雄	岡山	清水松太郎	和歌山
向井義雄	佐賀	塩地兵一	和歌山
向井清一	和歌山	下前忠平	和歌山
村重常太郎	福岡	須賀重吉	広島
村田実	広島	杉山治次郎	広島
永田安一	広島	角田敏夫	熊本
申島静雄	静岡	鉄木宗三	和歌山
新田喜太郎	岡山	立花隆幸	山口
徳谷定助	広島	高橋横助	和歌山
鍬田在平	広島	高林政太郎	長野
鹿島	広島	武田在太郎	広島
竹林為松	和歌山	竹原秋三郎	和歌山
瀧口保郎	静岡	瀬岡傳太郎	静岡
玉城利徳	神奈川	田村亜吉	熊本
田中定吉	広島	田中孫七	広島
		田中喜信	和歌山

(次号につづく)

斎藤文治	和歌山	斎藤多吉	和歌山
斎藤一八	佐賀	坂井安平	三重
櫻田瑛	長野	櫻田豊吉	静岡
更江平井	広島	佐藤忠一	広島
佐藤兵吉	佐賀	芝栄次	愛媛
島代衣幸吉	福島	清水喜代英	石川
宍戸長三	和歌山	庄野清太郎	広島
須賀重吉	広島	菅原一之	和歌山
角音三郎	和歌山	住園清	静岡
栃木田畑忠四郎	和歌山	高橋精造	和歌山
高松尻助	和歌山	高本度	広島
竹原秋三郎	和歌山	瀬岡傳太郎	和歌山
徳島	和歌山	田村亜吉	熊本
田中孫七	福岡	田中喜信	和歌山

千葉	千葉	静岡	静岡
沖縄	沖縄	和歌山	和歌山
静岡	静岡	青森	青森
和歌山	和歌山	広島	広島
福島	福島	和歌山	和歌山
静岡	静岡	福島	福島
和歌山	和歌山	福井	福井
広島	広島		

第二回より續く(第二大隊所属)
(○○○○○)
今村久(熊本)
山岩崎清(静岡)
木村山一郎(?)
三浦田米治(広島)
(不詳)

當收容所入舍順と其数

昨年六月十八日、堆く積った塵埃の中へ先驅、入所して来た同胞二百四十七名に次いで左記順に當ロッヂバーグ收容所に集った偉丈夫今や次ぎに他方面に分散移動さんとしてゐる！！！が以下その入所記錄を載せて參考にする！！

六月十八日　二四七名　布哇、アラスカ、北米より
〃　廿日　一四〇〃　サンタフヒー
〃　廿五日　八六〃　レアトル
〃　廿五日　九六〃　エルパソ
七月五日　六〇〃　サンタフヒー
〃　五日　四〇〃　布哇、北米
〃　五日　九〃　海の男士
〃　十一日　八六〃　ホートブリス
〃　十九日　七一〃　サンタフヒー
〃　廿七日　四六〃　？
〃　廿八日　一四七〃　ビスマーク
八月十一日　二〇　サンタフヒー
〃　十二日　一六七〃　ビスマーク

八月廿九日　九拾名　布哇、北米
〃　〃　一〃　エルパソ
〃　〃　七〃　？
〃　廿日　六〇〃　ミゾラ
九月廿四日　廿七〃　サンタフヒー
十月廿八日　五一〃　布哇
〃　〃　廿九〃　北米
〃　〃　四三〃　海の男士

第二班サンタフヒー行
第二大隊所屬氏名

番場玄光　新潟　藤井銀一
花本等　廣島　池上卯之助
井上六郎　熊本　亀坂三朝
管野勘七　福島　小林直吉

廣島　小坂善
神奈川　濱保次郎
富山　江森神次
和歌山　浜本綱吉
廣島　樋藤市治郎
兵庫　今給黎善治
廣島　豊次
兵庫　兼田與平
兵庫　木内源治
兵庫　小林利與
熊本　桑本西平
福島　松本興八左エ門
廣島　森田孟平
兵庫　濱稲雄
兵庫　松木孫花
兵庫　小松茂

大分　牧野保
廣島　秋本直義
群馬　萩本藤一
神奈川　妻園常花
廣島　生熊記内
廣島　岩橋幸次郎
福岡　加茂市次郎
廣島　河原忠吉
神奈川　河野尚
群馬　栗田常次郎
熊本　松川司良
福島　望月五郎
沖縄　南邦輔
青森　丸山亂正
香川　川村傳次郎
群馬　小坂哲言默

熊本　栗栖甚七
鹿児島　向谷助太郎
鹿児島　永井勝雄
鹿児島　中池栄吉
鹿児島　中村政吉
廣島　中野親夫
岡山　中山周
佐賀　西村辰夫
和歌山　大石市松
愛媛　大島豪十
栃木　坂本忠花
静岡　齋藤幸治
和歌山　清家正幸
青森　柴田卯之助
滋賀　椎泉廣男
富山　四反田義雄
須賀弥壽夫
和歌山　杉山勝次郎
富山　玉置英一
高知　竹崎一雄
福岡　田中五月
兵庫　谷迫三郎
兵庫　照屋規與
兵庫　豊川亮一
兵庫　後藤一
兵庫　山越光臣
兵庫　八木鶴明
兵庫　安永徳一
兵庫　横山長次郎
兵庫　湯浅久雄
兵庫　泉八十男

廣島　黒井太郎
廣島　永井良平
東京　中川末吉
鹿児島　中村寛造
新潟　仲村亮太郎
福岡　中島岩吉
熊本　西村直
愛媛　緒方新花
和歌山　大村実
群馬　西井政治
熊本　櫻田吉花
山梨　沢田直記
愛媛　瀬戸和三郎
山口　重藤円亮
鹿児島　白井吉三郎
廣島　曽木義雄
和歌山　萱田儀七
富山　須子勝平
和歌山　竹宇吾一
高知　田中実雄
福岡　谷駿吉
奈良　谷輔市太郎
沖縄　渡慶次興助
鹿児島　土田興助
和歌山　山本保
島根　山西秀吉
千葉　矢野勇太
山口　今俊清二郎
福井　横沢武司
長野　古木静雄
石川　三井正

山形　小坂善
静岡　濱保次郎
福岡　江森神次
滋賀　浜本綱吉
熊本　樋藤市治郎
兵庫　今給黎善治
兵庫　豊次
兵庫　兼田與平
兵庫　木内源治
兵庫　小林利與
兵庫　桑本西平
兵庫　松本興八左エ門
兵庫　森田孟平
兵庫　濱稲雄
兵庫　松木孫花
兵庫　小松茂

No. 54　LIVING A SECLUDED LIFE

(1) We get meager news of the world through your letters as well as our radio, magazines and newspapers. (2) Being far away from the actual life of the world, we seem to be in another world. (3) As we lead a life of confinement and imagine the rapid changes in the world, we feel as though we are in a dreamland. (4) We didn't think at all that we would be in such a fix as this. (5) Whenever a visitor comes here, we say that such and such a person has come from the outside world. (6) I wonder how long this kind of life will continue. (7) We smile sardonically by saying that if we return to the former life from this secluded life, we will have a hard time in adjusting ourselves.

別世界に住む（五四）

一、世間の消息はあなたからのお便りやラヂオ新聞雑誌を通じて僅かに知るだけです。
二、窓の生活から遠くに遠ざかってゐる心地になるやうです。
三、この中に閉ぢ籠ってゐて世界のすべてを想像してゐると何だか無の中にゐるやうな気がします。
四、今日のやうな境遇は今迄に考へた事もありません。
五、面會人があると我々は社會の女から隔々の来た人と話し合ってゐます。
六、こうした生活が今後どの位續いて行くことでせう。
七、世間と没交渉な生活に入ったからは家業は以前のやうな生活に立ち帰ったとしたらと思ふ事も余程思ひ切れないものだらうと察し入ります。

（一一頁へつづく）